

目指すべき学校像	国際社会に生きる人材育成を最高の目標とし、人格の完成、豊かな情操を育み、探求心旺盛な自主的・自律的な精神に満ちた心身共に健全な人間育成に期する。
重点目標	A 民族教育 建学の精神を伝え、教育目標が高い次元で実現するように協力体制をつくる。 B 学習 わかりやすい授業により、基礎を固め更なる学力向上を目指す。 C 生活習慣 規範意識・基本的な生活習慣を固め、心身共に健やかな成長を目指す。 D 環境整備 学習環境を整え、清潔で整備された学校を目指す。 E 人権教育 人権の重要性を認識し、自他共に尊重する教育を目指す。

達成度	A	ほぼ達成 (80%以上)
	B	概ね達成 (60%以上)
	C	変化が見られる (40%以上)
	D	不十分 (40%未満)

達成度は生徒アンケートで、「よく当てはまる」「やや当てはまる」の数値(%)の合計で表す。

学 校 評 価								
年 度 目 標				年 度 評 価				
重点目標	設問番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
A	1, 2, 3, 20	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度、設問2「本校の教育理念・目標を理解している。」に対する肯定的な回答が55%にとどまった。</li> <li>本校が創立にいたった背景や、歴史的な経緯を知ったうえで、それに基づいた教育理念・目標を理解することは、より有意義な学校生活につながり今後の成長を促す大きな要因であるので、効果的で継続的な指導・取組みが必要とされる状況である。</li> </ul>	生徒自身が学校創立の背景を理解し、誇りを感じることができる取組みの実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が毎日必ず通る展示ギャラリーで本校の歴史に関連した展示内容を充実。</li> <li>体育祭において歴史的な意義のある「応援歌」を復活。</li> <li>創立記念講話においては、校長による講話を通し実施創立当時の状況や苦難を乗り越えた経緯を生徒たちがより深く理解できる内容で実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校に誇りを感じる」生徒が80%を超える。</li> <li>「学校創立の精神と歴史を理解している」生徒が80%を超える。</li> <li>「教育理念・目標を理解している」生徒が80%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校に誇りを感じる」生徒は69%。</li> <li>「学校創立の精神と歴史を理解している」生徒は60%。</li> <li>「教育理念・目標を理解している」生徒が60%。</li> <li>「記念講話などで話される内容を理解できる。」生徒が59%。</li> <li>設問1～3, 20の平均で62%となった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均的に目標を概ね達成できているが、設問20「記念講話の内容を理解できる」に対する肯定的な意見が60%を下回っており、改善の必要がある。ここ2, 3年、韓国からの留学生が増えてきており、言語的な面でも理解が難しい部分がある事も一因と考えられる。時間を十分に取り、日本語・韓国語の両言語により講話を行う事やパワーポイント等を利用し、内容を両言語で提示する事が策として挙げられる。</li> <li>本校の教育を受け巣立っていった卒業生による講演や交流などもより一層取り入れ、本校で学ぶことの意義を認識できる機会を増やす。</li> <li>幼稚園から高校までの一貫校として取り組める体育祭や文芸祭等の行事教育を通し、本校の教育理念・目標の理解の一助となるような指導を強化する。</li> </ul>
B	4, 5, 6, 19	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連項目の平均が68.5%であった。2018年度より、全体的にポイントが落ちている。生徒の授業・学習への取り組みの意識の向上、教員の授業の在り方等、再検討が必要な状況である。</li> <li>生徒たちが理解しやすい授業の確立・生徒の置かれた状況を把握するための「スコラ」の活用は継続している状態である。</li> </ul>	積極的な学習活動への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>IT機器(電子黒板)を活用した授業の推進。(継続)</li> <li>日本語韓国語併記による板書、教材準備の推進。(継続)</li> <li>学習活動記録手帳「スコラ」の活用方法を生徒に再確認させることにより、自身の学校生活の指標になるように位置づける。(継続)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の「スコラ」の記入と提出の徹底。</li> <li>「スコラ」の活用による成果が現れるように、的確に生徒たちの行動を見守る。</li> <li>「授業に集中している」「授業が分かりやすい」生徒が80%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業に集中している」生徒が77%となり、昨年と同様となった。</li> <li>「授業は工夫されていてわかりやすい。」が69%から61%、「授業のわからないところなどについて質問しやすい。」が68%から63%、「学習に熱心に取り組んでいる。」が82%から73%となり、全体的に下がっている。平均は68.5%となり、概ね達成しているレベルは維持している。</li> </ul>	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員相互の授業見学を推進し、教授技術の向上をはかる。</li> <li>IT機器の活用、アクティブ(ディーブ)ラーニングの実践を目指し、教員の研修への積極的な参加を推進する。</li> <li>効果を上げている要素の一つである「スコラ」の活用を生徒の学習意欲向上に向けてより一層強化する。</li> <li>平素から授業アンケートを実施し、教員の授業の取り組みに対する意識の向上を図る。</li> </ul>
C	7, 8, 9, 10, 11, 16	<ul style="list-style-type: none"> <li>概ね生徒たちは、本校での学校生活に満足感を感じている。(関連項目の平均が78.5%)</li> <li>行事に対する満足感、教員の生徒指導、言葉遣いの項目では、肯定的な生徒が80%を超えている。</li> <li>学校教育の柱の1つである行事教育に関しては現況で成果が上がっていると考えられる。</li> <li>関連項目の中で唯一70%を下回っている基本的な生活習慣の指導に関してはより一層の強化が必要な状態である。</li> <li>生徒に最も近い担任や教科担当の日常の生徒指導力の向上が生徒の学校生活充実に対して不可欠な部分であるので、より一層の向上が望まれる状態である。</li> </ul>	学校生活の充実に関する取り組み 安全・安心で規律正しい学校生活づくりの推進 充実した学校行事の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校指導の継続。</li> <li>毎週の朝礼時での生活目標の確認と励行の呼びかけ。</li> <li>災害発生時に対応できる防災避難訓練の充実。</li> <li>校則の適切な指示・指導の徹底。</li> <li>スタディサプリの利用により、保護者への適切な情報提供の実施。</li> <li>外部講師による防犯教室、薬物乱用防止教室の実施。</li> <li>SNSの正しい利用方法の講習の実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>該当項目(7, 16)に対する肯定的な生徒が平均で80%を超える。</li> <li>「安心・安全な学校である」「教員の指導は校則に従って適切に行われている。」の肯定的な生徒が平均で80%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的な生徒の平均が82%となり、昨年同様の割合を維持している。</li> <li>肯定的な生徒の平均が77%となり、昨年より若干下がっている。</li> </ul>	A-	<ul style="list-style-type: none"> <li>全般的な方案は継続する方針とし、さらなる教育効果向上を模索する。</li> <li>登校指導の強化、生徒への意識付けを目的とし校門でのあいさつ運動を実施する。その際、生徒会の生徒たちの参加も促し、生徒の自発的な意識向上を促す。</li> <li>スタディサプリの連絡を、担任のみが担当するのではなく、管理職による連絡の実施を基本にする。</li> <li>生徒は行事に積極的に取り組んでいるが、若干過密なスケジュールも見受けられるので、その配置に関しては行事予定の時期や頻度を考慮する。</li> </ul>
D	17, 18	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒たちの環境維持に対する意識が平均的に高く、施設や設備などは良い状態で維持できている。ただ、故意に施設を乱暴に扱ったりする生徒が皆無になっているわけではない。</li> </ul>	美化意識の向上から教育環境の健全化と安全な学校づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内美化状況の確認、点検の徹底。</li> <li>清掃活動奨励の強化。(美化コンテストの実施等)</li> <li>清掃用具の点検と充実。</li> <li>生徒会の美化委員による自主的な美化意識の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活の中から常に教室内が整理整頓された状態であるように心がける意識を持たせる。</li> <li>美化意識が強い生徒が80%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関連項目(美化、清掃への取り組みや施設、備品の扱い)に関する肯定的な生徒の平均が87%となっている。</li> <li>日ごろの清掃活動から生徒たちが「自分たちの学校」として、本校に愛着を感じていると感じ取ることができる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>全般的な方案は継続する方針とし、さらなる教育効果向上を模索する。</li> <li>教員主導による意識向上ではなく、生徒の自主的な働きかけにより意識向上が出来るよう、生徒会との連携を深める。</li> </ul>
E	12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳やH, Rの時間を利用した校内での「差別」「平等」「国籍」「違い」等をテーマとした人権学習や、外部団体と協力して行われる「高齢者施設訪問」「身体障害者理解学習」「車椅子体験」等は継続されており一定の効果を上げていると思われる。</li> <li>近年、様々な要因で不登校傾向を示す生徒が増えていく中、このような状況に対し、生徒が人権的な観点から理解し対応できる心の持ち方を育てる必要がある。</li> <li>「悩みを相談できる環境がある」という設問に対する肯定的な生徒が61%にとどまっており、対応が必要な状況である。</li> </ul>	自分を認め、他人の存在を認める「心」の余裕を身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内、学外を問わず、人権教育の強化。</li> <li>生徒の悩みや相談に迅速に回答できるよう、担任任せではなく、複数の教員が生徒に対応する体制を確立する。</li> <li>スクールカウンセラーとの面談ができやすいようなシステムをつくる。</li> <li>生徒の人格を尊重し、個々の生徒の状況に合わせた教員の指導の在り方を徹底する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員による指導の在り方や生徒の性格等の把握に対して肯定的な回答が80%を超える。</li> <li>悩みの相談をしやすいと答える生徒の割合が80%を超える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の指導の適切性や生徒の人権を尊重した態度で接しているか、また、生徒一人ひとりの把握に関しての項目の平均は65%となった。</li> <li>「生徒が悩みの相談をしやすい環境である」という設問に対する肯定的な回答が61%にとどまった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な施設等の訪問を通じて、社会的弱者に対する「いたわり」の心を養う機会を継続する。</li> <li>悩みを抱える生徒が自発的に教員に相談することが難しい状況があると思われるので、教員による積極的な生徒への声掛けを行う。</li> <li>スクールカウンセラーの相談機会を週1回から週2回へと増加する。</li> </ul>